

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 5月 6日現在

機関番号：34510

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2009～2011

課題番号：21710272

研究課題名（和文）南インド農村のマイクロファイナンスと女性の政治意識に関する基礎研究

研究課題名（英文）Studies on Microfinance and Women's Political Awareness of Rural Area in South India

研究代表者

北川 将之（KITAGAWA MASAYUKI）

神戸女学院大学・文学部・講師

研究者番号：00365694

研究成果の概要（和文）：本研究では、南インド農村におけるマイクロファイナンスの貧困女性を事例として、ジェンダー研究の視点からその政治意識を調査するための理論的検討を行った。現地調査データに基づいていけば、貧困女性の私的・公的な意思決定への参加を左右する要因として、既存研究で指摘されてきた家族・親戚に加え、マイクロファイナンス活動を共にするメンバーの存在、すなわち近隣女性との交友関係が重要であると考えられる。

研究成果の概要（英文）：Based on gender studies perspective, this study enquires into the theoretical arguments on surveying political awareness of poor women in case study of microfinance members in rural South India. The analysis of fieldwork data shows that their participations into decision making processes in private and public spheres are assumed to be affected not only by family and relatives, as mentioned in the previous studies, but also by female neighbors such as microfinance members.

交付決定額

（金額単位：円）

| | 直接経費 | 間接経費 | 合計 |
|--------|-----------|---------|-----------|
| 2009年度 | 700,000 | 210,000 | 910,000 |
| 2010年度 | 700,000 | 210,000 | 910,000 |
| 2011年度 | 600,000 | 180,000 | 780,000 |
| 年度 | | | |
| 年度 | | | |
| 総計 | 2,000,000 | 600,000 | 2,600,000 |

研究分野：政治学

科研費の分科・細目：ジェンダー・ジェンダー

キーワード：法・政治

1. 研究開始当初の背景

(1) 本報告者は、この研究開始以前からインド南部のカルナータカ州ベンガルール農村で調査を行い、マイクロファイナンスの女性の政治意識を研究してきた。研究開始当初までの知見としては、貧困女性の一部、特にマイクロファイナンス活動をしている女性は、村民集会で政治家に異議申し立てをしても当然であるという意識がみられることが考察されていた。これは、マイクロファイナ

ス活動を通して、貧困女性は仲間意識を強固にしており、そのことが公的な政治の場である村民集会において、異議申し立てをすることの抵抗感を抑えていると推測することができる。

(2) 他の先行研究でも類似した指摘がなされている。州政府と国連開発計画がまとめた『カルナータカ州人間開発報告書 2005』にも、マイクロファイナンス活動の事例が紹介

されており、その中には、経済的資源を自ら獲得する経験を通じて、家庭の中で尊敬の眼差しを受けるようになり、自尊心を高めた女性たちは地域の問題（井戸や小学校教育）にも関心を向け始めていること具体例が挙げられている。

2. 研究の目的

(1) 従来の政治学分野の研究は、「公的な場」（村民集会など）における女性の意思決定に多大な関心が寄せられてきたが、それと表裏一体の関係をなしているのが「家庭内」での意思決定の問題（夫婦・親子・嫁姑などの関係）である。本研究では、家族社会学的な側面を含めたジェンダー研究の視点から、マイクロファイナンス女性の政治意識を検討する。

(2) インド農村で村の集会や役場に貧困女性が積極的に参加する現象は、新聞雑誌や州政府の報告書で指摘されるなど関心を集めてきた。だが、これまでの研究では私的な場（家庭）と公的な場（村民集会など）をジェンダーという視点から統一的に捉え、その政治意識をさぐる調査が十分に行われてきたとは言い難い。本研究では、貧困女性を取り巻く私的な人間関係を現地調査データに基づきながら検討し、政治意識との理論的な連関を探ることを目的とする。

3. 研究の方法

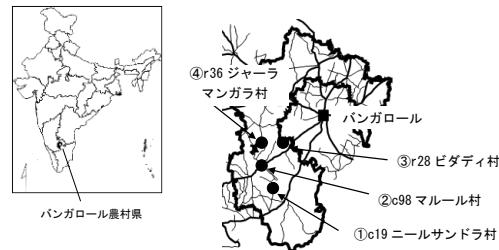
(1) これまでのジェンダー研究のなかで本研究課題と関係するものとして注目するのが、「存在の政治」論（Phillips 1995; Hust 2004）である。これは、身体的特性および社会的に構築されたカテゴリー属性を備えた「女性」が、意思決定の参加者・代表者として認識されることで、周囲の女性の意思決定行動に影響を与えることを論じたものである。この議論に従えば、マイクロファイナンス活動をする貧困女性は、自分たちで定期的に意思決定を繰り返しており、そこでの経験は女性が意思決定に参加することの認識を変える契機になっていると推測される。以上の内容を理論的な土台としながら、この推論に関連する資料を集めて分析を行う。

(2) 資料収集では、新聞雑誌記事のサーベイ、現地の貧困女性を支援する団体への聞き取り調査、マイクロファイナンス活動の参与観察を行った。本研究の開始一年目および二年目に、インド・バンガロールで約2-3週間のフィールドワークを行い、マイクロファイナンス活動の現場で日常的に歌われている歌の映像・音声データを記録収集した。

(3) 農村政治および貧困女性支援の近年の研究動向を探るべく、農村政治の調査を行っているインド社会科学研究所や社会変動研究所（ISEC）の研究者と意見交換を行った。ただし、研究の一年目と二年目は現地で直接話合いをもったが、三年目は相手側研究者との日程調整が不調に終わり、現地訪問は取り止めて電子メール等での意見交換となった。

4. 研究成果

(1) 貧困女性の政治参加の様態に関して、「マイクロファイナンスと陳情行動」の論文にまとめ、2010年に学術雑誌『女性学評論』で発表した。ただし、この論文で扱っている調査データは、本研究の開始以前に収集していた2006年時点のものである。この論文では、本研究の課題である女性の「意思決定」への参加という側面に焦点を絞り、その調査データの再検討を行った。調査地は下記の通りである。



(出所) 筆者作成。

村民集会への参与観察では貧困女性が政府関係者に対して陳情などを積極的に行っている姿を見ることができた。主に考察された点は次の通りである。

- ・村民集会の議事進行は、州議員・官僚・政党幹部など年長の男性が行っていた。
- ・議事進行に対して長時間にわたり抗議や論争を繰り返していたのは、30-40才代で若手の男性であった。
- ・女性も集会に数多く参加していたが、女性は議事進行を静観しているだけであった。しかし、議事の一時中断時や終了時に、女性達が集団になって陳情を行っていた。

比較分析したのは4つの村である。それぞれの村民集会の概要および貧困女性の陳情行動という政治参加の様態については、下記の表のように整理することができる。様態の差はあるが、貧困女性の陳情がいずれの村でも考察された。そして、陳情は共通して集団行動の形で行われていた。

集会 【①c19 ニールサンドラ村_チャンナパトナ】

| | |
|--------------|---|
| 日時 | 2006年1月25日(水曜)、12:30-14:00 |
| 出席 | 村民(男性90名ほど、女性40名ほど) 村議員(男性5名、女性4名) 郡行政官(郡の第二書記官、教育、農業技術、テシルダール) 政党幹部(州議員1名、県議員1名、郡議員2名、すべてINC) |
| 議事進行 | 議事進行役(村書記官、ほとんどの場合、州議員がマイクを独占) 議事は、①政府による家屋供給の受給者リストとその最終決定 *村議員の男性達が会の開始すぐ、前方に出てきて、州議員に対して、ワード集会でのリスト作成過程が不平等だと大声で不満を訴える。②郡レベルの行政官から告知(養蚕技術、教育支援など) *だが、告知の話をささぎって、再び村民の男性達が家屋供給の受給者リスト問題で不満を訴える。州議員が、リストの内容を再考すべきとマイクで述べると、女性の村民も含めて数十名が陳情書を提出しようとする前方に集まり、議事進行は50分ほど中断。結局、受給者リストの決定は、州議員の手で行われて会終了となった。 |
| 対立の構図 | 村民同士の利害対立 インド国民会議派のグループで言い争う |
| 事態の收拾 | 州議員が受給者リストを最終決定 |

集会 【②c98 マルル村_チャンナパトナ】

| | |
|--------------|--|
| 日時 | 2006年2月6日(月曜)、12:00-14:00 |
| 出席 | 村民(男性80名ほど、女性40名ほど) 村議員(男性8名、女性8名) 郡行政官(第二書記官、養蚕、教育支援、徴税、農業技術の担当者) 政党幹部(州議員1、県議員1、郡議員2、内1名は郡議会の議長、すべてINC) |
| 議事進行 | 議事進行役(村書記官、ほとんどの場合、州議員がマイクを独占) 議事は、①養蚕に関する告知 *その途中で、村議員と村民男性が、農業用水の施設の電力が届いてないと訴える。軍行政官と激しい口論になり、一時騒然となる。警官が3名に増強されて、前方に配置されて落ち着く。②州議員が問題解決のために明日、州レベルの担当者を村に呼んで早急に電力問題を解決する、と提案して事態は收拾。③郡行政官からの告知(教育支援、徴税の控除対象枠など) *会終了後、女性10名ほどが、州議員を取り囲んで陳情。 |
| 対立の構図 | 村議員と村民が州・郡の行政を批判 インド国民会議派とジャナタ・ダルの党員間の争い |
| 事態の收拾 | 警察官の出勤 州議員が話し合いの場を設けると提案 州議員が受給者リストを最終決定 |

集会 【③r28 ビダディ村_ラムナガールム】

| | |
|--------------|---|
| 日時 | 2006年1月24日(火曜)、12:00-14:00 |
| 出席 | 村民(男性75名ほど、女性25名ほど) 村議員(男性8名と女性8名) 郡行政官(日雇い労働、教育、保健衛生、農業技術、養蚕、郡の第二書記官) 政党幹部(県議員1名、郡議員1名、ジャナタダル) |
| 議事進行 | 議事進行役(村書記官、女性の村議長、男性の村副議長) 議題は、①ワード集会の結果報告(政府の日雇い労働・公的家屋の受給者リスト、公共の墓地建設、電力設備の公共事業計画) 挙手で承認、その後、議事の記録用紙に参加者全員が署名、②今年度の村自治体の財政支出状況を報告 *水道水の利用にかかる税と家屋税について不平等な徴収だと混乱、③郡レベルの行政官から各種の告知(魚の養殖、貧困線以下層への支援プログラム、養蚕の補助金、指定カーブ・部族への運転免許取得支援など) ④自由な発議討論(公共の墓地に使う土地の区画線をめぐって言い争い、30分以上続く) *会終了後、村役場にて、女性3名が村議員に陳情。 |
| 対立の構図 | インド国民会議派とジャナタダルの争い 男性の村民同士で、公共地の利用をめぐって言い争い 村議員が村行政官を批判 |
| 事態の收拾 | 郡レベルの第二書記官が説得、 男性の村の副議長も説得 |

集会 【④r36 ジャーラムンガラ村_ラムナガールム】

| | |
|--------------|--|
| 日時 | 2006年1月28日(土曜)、12:00-14:30 |
| 出席 | 村民(男性50名ほど、女性70名ほど) 村議員(男性6名と女性6名) 郡行政官(養蚕技術、教育、保健、社会福祉、農業技術の各担当者、郡の第二書記官) 政党幹部(郡議員1名、郡議会の議長、ジャナタ・ダルの政党幹部) |
| 議事進行 | 議事進行役(村書記官、男性の村議長、女性の村副議長) 議題は、①村住民地区の集会(ワード・サバー)の討議結果の報告(飲料水設備、公的日雇い労働の受給者リスト、公的の家屋の受給者リスト、公共の井戸の修復計画) *これらに関する不満の声があがって30分以上混乱が続く(男性グループの争い)、②保健衛生プログラムの告知、③養蚕技術訓練の告知、④農耕機械の補助金の告知、⑤食料配給プログラムの告知、⑥教育支援プログラムの告知、⑦一般討論(小学校の出席率の低下問題、税金回収の方法改善) * 会終了後、村議員の男性が、女性数名を村役場に呼び、事業計画の説明を行った。 |
| 対立の構図 | ジャナタ・ダルを支持する人々の中の争い * 村の小学校の校長が村民に対して子供を農作業でなく学校に通わせるよう訴える 男性村議員が行政官の職務態度を批判 |
| 事態の收拾 | 郡レベルの第二書記官が説得 |

以上の考察では、貧困女性が公的な政治の場で陳情など意思決定に積極的に関わる際、その行動様式は単独ではなく集団的である点が特徴的であった。

(2) 貧困女性の私的な場における人間関係を探るにあたり、マイクロファイナンスの女性たちが日常的に歌っている歌に着目した。週1回の定期的なミーティングの開始時または終了時、彼女たちは歌を歌うことがある。それはマイクロファイナンスのグループ毎あるいは地域ごとに異なる。また、同じグループでも歌を随時変更してゆくこともある。

歌詞の内容は多様であり、農作業の苦勞、夫との関係、子育て、姑など男性側の家族との関係などがあつた。その中で本研究課題において重要な点を示唆するものとして、次のような歌がある。

「私の夫の家族は格式高い家族
小さな失敗も見逃さない
もし夫とけんかでもしたら
追い出されてしまう
わが愛する姉妹たちよ
どこに行こうとも
あなた達より愛おしい者はいない」



これは地域の女性たちが歌い継いできたもので、1分程度の非常に短い歌である。マイクロファイナンスのメンバーは全員、この歌をよく知っており、定期ミーティングの終了時に歌っている。

歌詞の内容をみると、夫とその家族との関係で苦悩していることが描かれている。そして、家族関係で悩みを抱える女性が「愛おしい」存在として大切にしようとしているのが、「わが愛する姉妹たち」であると歌われている。

この歌の映像記録をみると、互いの顔が見えるように半円形の配置で座りながら、歌っていることがわかる。歌詞の中にある「わが愛する姉妹たち」という箇所は、マイクロファイナンスのメンバーが互いに相手の顔が

見える状態で歌われている。

銀行から少額の融資を連帯責任で受けて、その使途と返済を協力しながら行ってゆくマイクロファイナンス活動では、時としてメンバー同士で意見が対立することがある。彼女たちは、たとえ険悪な雰囲気にも陥っても、グループ全体の決定的な分裂にまで至らないよう、この歌をマイクロファイナンスのミーティングで歌い続けているのだと思われる。

彼女たちにとってこの歌詞の中の「姉妹」とは、マイクロファイナンス活動を共に続けているメンバーのことを意味している。そして、歌という形で、グループの意思決定において互いが大切な存在であることを確認しあっていると解釈することができる。

マイクロファイナンス女性の歌の分析結果およびその政治参加の集団行動を併せて考えると、貧困女性の私的・公的な意思決定への参加を左右する要因には、家族関係だけでなく、近隣女性との交友関係も重要であることが推測される。これまでインドの政治意識のアンケート調査では、質問項目として「近隣女性との交友関係」が取り上げられることは殆どなかった。ジェンダー研究の視点から進めてきた本研究結果は、インドの政治意識調査の質問項目に関して、今後検討の余地があることを示唆しているといえよう。

(3) なお、カルナータカ州農村部の貧困女性の政治参加に関する近年の動向としては、これまで連邦・州レベルで展開されてきた政党政治が、村議会のメンバーの争いへと転化しつつあり、貧困女性が政治に参加するにあたり、政党の影響力が増大しつつある点が注目される。2009年の連邦下院選挙では、女性の立候補者数・当選者数ともに増加している。この点は、拙者の執筆した『インド民主主義の発展と現実』の第2章で、その分析結果をまとめた。女性の政治参加が強まっているとしても、それは政党政治の枠組みの中で起こっている。インド社会科学研究所のスーパー研究員の指摘では、こうした政党政治化現象は、カルナータカ州の場合、村レベルでも顕在化しつつあるという。これまで村レベルの女性の政治参加では、政党の影響力よりも、地域有力者の影響力が大きいと考えられてきたが、近年変化が生じている。これは、貧困女性の政治参加の在り方に大きな影響を与えるものであり、今後の重要な研究課題である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計1件)

北川将之「マイクロファイナンスと陳情行動」『女性学評論』査読なし、24巻、2010年、pp. 99-121。
<http://ci.nii.ac.jp/naid/110008791978>

〔学会発表〕(計1件)

北川将之「パンチャーヤット制度の展開—カルナータカ州における2006年頃までの動き」龍谷大学現代インド研究センター・第4回ユニット1研究会(本科研との共催)、2011年9月20日、龍谷大学(大宮学舎)。

〔図書〕(計1件)

広瀬崇子、北川将之、三輪博樹(編著)『インド民主主義の発展と現実』勁草書房、2011年、13-25ページ(「第2章 第15回連邦下院選挙の概要」の箇所を執筆)。

〔産業財産権〕

○出願状況(計0件)
なし

○取得状況(計0件)
なし

〔その他〕

ホームページ等
なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

北川 将之 (KITAGAWA MASAYUKI)
神戸女学院大学・文学部・講師
研究者番号：00365694

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし